



服部学長の挨拶 祝辞を述べる丸山島根県知事 佐藤光司氏による特別講演 湯浅邦弘氏による特別講演

島根大学は開学70周年を迎えました

島根大学は今年開学70周年を迎えました。去る10月26日(土)に松江市のホテル一畑において、開学70周年記念式典及び祝賀会が挙行されました。

記念式典では、服部学長の挨拶の後、萩生田文部科学大臣(伯井文部科学省高等教育局長代読)、丸山島根県知事及び永田国立大学協会会長(戸渡国立大学協会常務理事・事務局局長代読)から祝辞が述べられ、各方面から届いた祝電が披露されました。

また、日立金属株式会社の代表執行役・執行役社長で島根大学の特別顧問でもある佐藤光司氏から「キラリと光る地方大学-たたらから始まる先端金属材料拠点島根大学の夢の実現-」と題し、現在本学の最重要事業として取り組んでいる「先端金属素材グローバル拠点の創出-Next Generation TATARA Project-」に係る記念講演と、大阪大学教授で本学の卒業生でもある湯浅邦弘氏から「ここに咲く花-卒業生の期待する島根大学」と題して記念講演がありました。

式典後に開催された祝賀会では、開学70周年を記念して作成した島根大学愛唱歌「すがしき風」が島根大学合唱部によって披露される等、終始和やかな雰囲気の中、大盛況のうちの終宴となりました。

会場内では、昭和24年の開学から今日までの歩みをまとめた記念映像が上映され、懐かしい映像が映るたびに大きな歓声が上がっていました。

10月10日には医学部附属病院の開院40周年記念式典、祝賀会が挙行されており、10月の島根大学は大きな記念事業を2つ行いました。



山本大学入試センター理事長による乾杯



島根大学合唱部による愛唱歌の披露

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2019年 12月15日~2020年 1月14日
 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12/15(日) 9:30~11:30	2019年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院
12/15(日) 13:30~15:30	出雲市民フォーラム 「島根大学病院の最新治療」2019冬	臨床講義棟 臨床小講堂	一般	島根大学医学部附属病院
12/16(月) 18:30~19:30	2019年度 臨床研究・統計セミナー 「安全性情報の取り扱い」	講義棟3階 L3講義室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
12/19(木) 14:00~15:30	医学系研究基本講習	臨床講義棟1階 臨床小講堂	本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
12/20(金) 15:30~	令和元年度 第3回 肝臓病教室 「肝硬変のお話」	★島根県立中央病院3階 会議室1	一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
12/20(金) 16:30~	令和元年度 第3回 家族支援講座 「肝臓病のみなさん、エコー検査を受けましょう!」	★島根県立中央病院3階 会議室1	一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
2020年 1/7(火) 14:00~15:00	2019年度 臨床研究・統計セミナー 「品質マネジメント」	講義棟3階 L3講義室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

NEWS



CONTENTS

- ・先進医療の再開に向けて
- ・島根大学医学部附属病院における、がんゲノム医療の今後について
- ・島根大学は開学70周年を迎えました
- ・島根大学医学部における研修会・セミナー開催情報



先進医療の再開に向けて

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

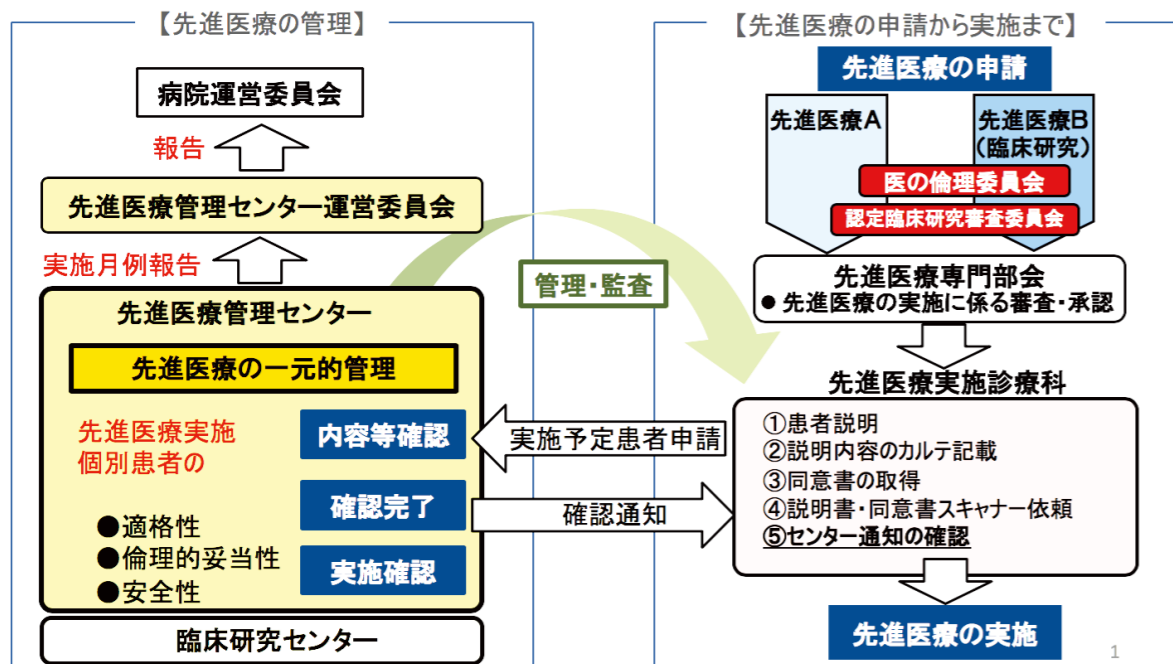
当院では、2018年11月から臨床研究として実施した先進医療B(マルチプレックス遺伝子パネル検査)において、症例登録前に患者さんから文書同意を得ていなかった点と患者さんの病理報告書を送付の必要がないにもかかわらず検査会社に送ったことが個人情報の漏洩とみなされて、今年2月中旬開催の厚生労働省先進医療技術部会で問題事例として取り上げられました。

その後、2018年度に実施した先進医療A及びBで一部不適切事案が認められ、厚生労働省に再度調査結果と再発防止策の報告を行いました。10月10日開催の厚生労働省先進医療会議において、一連の先進医療に係る不適切事案についての原因分析と再発防止策が審議されています。再発防止策のポイントは、先進医療管理センターを中心とした管理システムの構築(図)で、先進医療の適格性、倫理的妥当性と安全性等を確保することを目標とし、先進医療の実施状況の確認、教育・研修などを包括的に管理します。具体的には、先進医療実施責任医師はスタートアップミーティングを開催して実施手順、注意点について確認し、法令、指針等の遵守に関する誓約書を先進医療管理センターに報告することなどを義務付けることとしています。

今年2月20日に当院で実施していた先進医療を自主的に中止していましたが、先進医療の再開を望まれている患者さんも多く、上記の通り適正実施の体制を整え、実施可能な先進医療から再開の予定です。再開する先進医療の内容についてはホームページ、病院ニュースで順次お知らせいたします。

図: 先進医療管理センター

2019年4月に設置した先進医療管理センターは、先進医療の実施状況を調査し、管理・監査を行うことにより、先進医療の信頼性、倫理的妥当性及び安全性の確保に取り組む。



島根大学医学部附属病院における、がんゲノム医療の今後について

がんゲノム医療センター長
先進医療管理センター長
呼吸器・化学療法内科診療科長
(日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法指導医) 教授 いそべ たけし
磯部 威

当院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、最新のがん医療を提供するために、多診療科、多職種によるチームを形成し、包括的ながん医療を実施しています。「ゲノム」とは遺伝子をはじめとした遺伝情報の全体に対する総称であります。がんは、ゲノムの変化に伴って遺伝子が正常に機能しなくなったために生じる病気です。医療技術が進歩し、次世代シーケンサーという医療機器を用いることにより、短時間でゲノム情報の解析ができるようになりました。がんゲノム医療とは次世代シーケンサーを使用(院外の検査会社に委託)し、患者自身のがん細胞のゲノム解析(変異している遺伝子を探すこと)を行い、治療に使用できる薬を探すことです。2019年6月からゲノム情報を調べるための遺伝子パネル検査が保険適用されました。しかしながら、全く新しいがん医療であり、遺伝子解析結果を検討する専門家を有する、がんゲノム医療中核拠点病院(全国11カ所)や院外の検査会社との連携が必要です。また、患者情報の厳正な管理、専任スタッフの配置、院内医療従事者の教育なども必要となります。

当院は、「がんゲノム医療連携病院」の一つに認定され、このたび「がんゲノム医療センター」をリニューアルし(写真)、検査結果をもとに推奨される治療法については、主治医、病理医、がん薬物療法専門医、各種がん専門医からなるエキスパートパネル(専門家会議)で検討する体制を新たに構築しました。

今後は、がんゲノム医療連携病院として、島根県民に対して適宜ながんゲノム医療を提供するための最終段階に入りました。具体的な診療体制は間もなく整い、適宜最新の情報を県民、医療関係の皆様にお届けしますのでよろしくお願いたします。

リニューアルされたがんゲノム医療センター

がんゲノム医療センターは先進医療管理センターに併設されています。個人情報、ゲノム情報を管理するため、入室は登録された者のみがICカードで入室可能としており、内部には、NCCオンコパネル、FoundationOneなどの保険収載されたゲノム検査を登録、管理するための独立したコンピューターが設置され、電子カルテを参照しながら適正ながんゲノム医療が実施されていることを確認、管理することが可能です。





島大病院ニュース 2019年12月

ご報告



第17回 患者さんの視点に立った医療を考える委員会

2019年11月14日(木)に「第17回患者さんの視点に立った医療を考える委員会」を開催しました。冒頭、病院長より「本年の10月で当院は開院40周年を迎え、次の50周年に向けて前進してまいりたい。そのためには、皆様のご意見が病院の経営等の改善に役立っており、忌憚のない意見をいただきたい。」との挨拶がありました。

その後、議事に入り病院長から資料に基づき、「患者満足度向上ワーキンググループの報告」、「患者さんの声」、「患者満足度アンケート」、「アメニティ向上ワーキンググループの報告」についての説明がありました。

小児病棟では、チャイルドライフスペシャリストを配置し、また、AYA世代のスペースを設置したうえで、入院患者さんからの要望を聞き必要物品等を検討していること、買い物に行くことができない入院患者さんの買い物代行を実施していること、患者図書室を休日も開け、要望のあった休日の新聞も置くようにしたことなど、患者さんからの要望にできるだけ応えるように努めているなど具体的な説明がありました。

外部委員の方からは、患者さんの気持ちに寄り添った対応をお願いしたい旨の要望があり、真摯に受け止め、対応することを確認しました。



島大病院ニュース 2019年12月

ご報告

出雲キャンパス学童保育 「キッズクラブ太陽」10月の行事から

ワークライフバランス支援室 室長 たなか まなみ
田中 真美



今年初めての試みで英語の先生にご協力頂き、全員でハロウィンイベントを行いました。ハロウィンイベントまで宿題が終わった後の自由時間を利用して、子供たちが自分で衣装を作成しました。

少ない時間の中で頑張ってくれて、当日は素敵な仮装をして、イベントを楽しみました。イベントではハロウィン由来の話を聴いたり、ゲームをしたり、オーナメントを作ったり、あっという間に時間が流れていきました。

令和2年度 定員50名(先着順)

入所募集中!

募集期間: 11/1(金)~

来年に向け募集が始まりました!

対象学年

1年生~6年生まで

【募集対象校区5校】 塩冶小・今市小・大津小・神戸川小・四絡小
※他校については相談に応じます。

バス代 一律(月額)500円

徒歩で
塩冶小

学校へバスでお迎え可能
今市小・大津小・神戸川小・四絡小

ご報告
島大病院ニュース

2019年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

2019年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年12月

お知らせ



産科

タリーズの「ドリンク・ケーキチケット」の進呈につきまして ～お祝いの気持ちとして～

このたび、当院においてご出産されたご家族様へのお祝いとして、タリーズチケット(ケーキまたは焼き菓子2個+ドリンク)を進呈することといたしました。

これまで、お祝い膳をお母さんに提供してまいりましたが、お祝い膳の追加サービスとして、ご夫婦それぞれへこのチケットをお渡しすることとしました。

ささやかではありますが、ご出産されたご家族様へのお祝いの気持ちです。これからも患者さんのみならず、ご家族様の気持ちに寄り添ったサービスを提供してまいります。

お祝い膳



島大病院ニュース 2019年12月

お知らせ

病院長補佐就任のご挨拶

脳神経内科診療科長・教授 ながい 長井 あつし 篤

本年11月より当院病院長補佐を拝命致しましたのでご報告します。

私は1988年に島根医科大学を卒業し、第三内科に入局後当院および大学で勤務し、脳神経内科を専門に診療・教育に従事してきました。2004年からは検査部に所属し、その後検査部長として病院経営の一端を学んできました。2019年9月より内科学第三(脳神経内科)を担当しています。

2019年12月1日より、いわゆる脳卒中対策基本法が施行されることとなり、国民の健康寿命の延伸を図るために脳卒中診療を充実させることが望まれます。高齢化先進県である島根県において、当院脳神経内科入院患者の半数が脳卒中で占められていますが、今後もさらに脳卒中センターの設置や充実を図り、脳卒中対策を進めていきたいと思っております。

今回病院長補佐としての私の役割として、病院のコンプライアンス強化を命じられました。近年、診療体制の複雑化、多職種連携が必須の病院において、より良い医療を提供し社会から認められるために、法令遵守のルール、体制、手段を常に自己研鑽していく必要性が問われています。

微力ではありますが、病院長補佐としての任務が果たせるよう尽力して参りますので、皆様方のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



お知らせ

島大病院ニュース

2019年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ

島大病院ニュース

2019年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年12月

お知らせ

病院長補佐就任のご挨拶

脳神経外科診療科長・教授 あきやま やすひこ
秋山 恭彦

2019年10月より、病院長補佐（診療体制強化）を拝命しました。

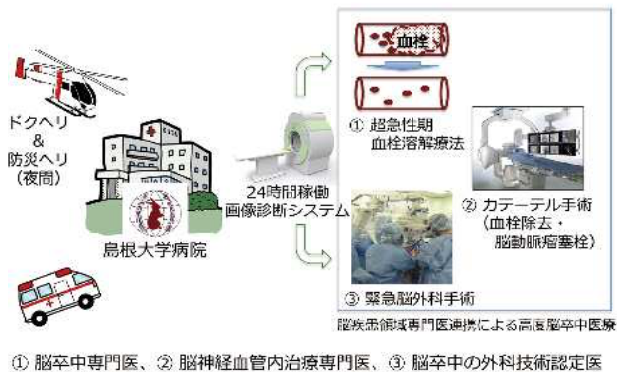
本年12月より、「脳卒中・循環器病対策基本法」が施行されます。本基本法の理念は、①循環器病の予防、②循環器病を発症した疑いがある場合における迅速かつ適切な対応の重要性に関する国民の理解と関心を深める、③循環器病を発症した疑いがある者の搬送及び医療機関による受入れの迅速かつ適切な実施等です。

当院では心臓病に対する包括的な診療を行う総合ハートセンターが設置されていますが、脳卒中に対応するセンター組織は未設置です。脳卒中に対しては、これまでも脳神経内科、脳神経外科、救命救急センター、そしてリハビリテーション科が連携して対応していました。しかし本法律に対し、島根県に存在する地域の大学病院としての責任を果たすために、高度脳卒中センターを特殊診療施設の位置付けで設置することとなりました。

同センターの設置には、院内の各診療科や部署はもちろん、島根県内の医療施設や救急隊との連携が重要になります。少しでも当院の診療体制強化に貢献ができますよう努力いたしますので、宜しくお願いいたします。



高度脳卒中センター



お知らせ
島大病院ニュース

2019年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年12月

ご報告



ワークライフバランス週間応募作品の表彰式を行いました

ワークライフバランス支援室 室長 たなか まなみ
田中 真美

当院は、すべての職員が「仕事と家庭の調和」を実現できる職場づくりを目指して活動しています。その活動の一環として、ワークライフバランス支援室と看護部PNS推進委員会では、職員がWLBについて考えるきっかけになればとの思いから、2014年度より11月23日の勤労感謝の日をはさむ一週間をWLB週間としています。第6回目となる今年度は、「WLB川柳」、「わたしの休暇の楽しみ方写真」、「各部署のWLB実践例」を職員より募集し、職員投票を行いました。そして12月3日の表彰式では、井川病院長より受賞者へ表彰状と副賞が贈呈され、終始和やかな式典となりました。

井川病院長からは、「家庭と職場の両立は永遠のテーマですが、時には川柳を詠むという心にゆとりをもって過ごしていただきたい。」とのお祝いの言葉をいただきました。WLB週間企画の募集では、定時退勤・ノー残業という言葉が非常に多く、働き方改革への関心の高さがうかがえました。

今後も、職種・性別の区別なく全ての職員が働きやすく、キャリアアップができる病院作りをめざして活動を継続していききたいと思います。

<WLB川柳優秀作品一瞥>

- ◆井川病院長賞 「お迎えに 行くど笑顔の 愛しい子」 Y・Kさん
- ◆島形医学部長賞 「頑張った 自分に「いいネ!!」押しまくる」 S・Tさん
- ◆田邊副病院長賞 「「定時に帰れる!!」 その日に限って 必須研修」 マイケルリーチさん
- ◆廣瀬副病院長賞 「減らしたい 体脂肪と 時間外」 R・Sさん
- ◆齊藤副病院長賞 「リフレッシュ休暇 仕事が気になる 脳残業」 ワーキングイノベーションさん
- ◆田中副病院長賞 「年休5日 長寿のための 計画運休」 笑わない女さん
- ◆機部病院長補佐賞 「ありがとう 言われた私も ありがとう」 ガンバ母ちゃんさん
- ◆秋山病院長補佐賞 「疲れもグチも 一緒に焼いちゃえ! 今日は焼肉」 S・Sさん
- ◆長井病院長補佐賞 「NO残業 早く帰って ONE FAMILY」 マッスルディスカバリーさん
- ◆安友事務部長賞 「こども増え 早く帰って 寝顔見る」 身近なくすりやさん

<WLB好実践例>

◆看護部PNS推進委員会賞

総務課 「総務課では、遅まきながらお茶当番に男性を加えた。女性にコーヒーの淹れ方を真剣に学ぶ姿は仕事以上に真剣そのもの。これも時代を反映したものでWLB実践の一つである。」

<「わたしの休暇の楽しみ方」写真優秀作品>

◆WLB支援室賞

M・Tさん 「お散歩中发现したクローバーをさして照れながらも決めポーズ」

WLB実践例

遅まきながらお茶当番に男性を加えた。女性にコーヒーの淹れ方を真剣に学ぶ姿は仕事以上に真剣そのもの。これも時代を反映したものでWLB実践の一つである。

看護部PNS
推進委員会賞



M・Tさん

お散歩中发现したクローバーをさして照れながらも決めポーズ。

ワークライフバランス支援室賞

ご報告
島大病院ニュース

2019年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



さぽっとカフェin出雲キャンパス 学長・篠塚監事との意見交換会

ワークライフバランス支援室 室長 田中 真美

ワークライフバランス支援室では、島根大学男女共同参画推進室と共催で、学長・篠塚監事をお迎えし9月25日に意見交換会を開催しました。学長と直接お話出来る貴重な機会とあって、当日は教員、看護職員を中心に46名の参加がありました。

冒頭、進行役の河野学長特別補佐(男女共同参画担当)から、「今日は特にテーマを設けていないので、日ごろ感じていることについて遠慮なく意見ををお願いします。」との発言で意見交換会が始まりました。

参加者からは、次のような意見がありました。

- 働き方改革の観点からもせめて講義の終了は17時15分までに納まるよう改善をお願いしたい。
- 看護職員、事務職員ともにマンパワー不足を感じている。人件費のこともありますが、増員については是非検討をお願いしたい。
- 働き方改革が始まり、大学教員(研究者)にとって様々な制約が出ている。
- 学童保育施設を設置していただきとても感謝していますが、子どもを迎えに行くといつもこどもに「お母さんは何で最後の?」と言われる。将来的な人員の雇用について検討いただきたい。

学長からは、看護職員をはじめ出雲キャンパス職員の業務の厳しさ等十分承知していますので、今後についても継続的に情報交換していきたい旨のお話がありました。

続いて篠塚監事からは、出雲キャンパスの学童保育施設は現場からの熱い声で設置が実現した。知らない新しい試みも作れない、知らないことが一番の停滞の原因だと思いますので、是非これからもこのような機会を設けてくださいとの挨拶がありました。



ご報告

クリスマスイルミネーション の点灯式を行いました

当院では、入院中の患者さん、小児患者さんに寒い冬の夜を少しでも楽しく温かい気持ちで過ごしていただけるように、毎年、冬の到来とともに庭園をイルミネーションで飾ります。

11月12日(火)にクリスマスには少し早いですが、長い期間イルミネーションを楽しんでいただくため、ひと足早くクリスマスイルミネーション点灯式を行いました。

病院2階食堂ラウンジで、最初にうさぎ保育所の子どもたちが「クリスマスの歌が聞こえてくるよ」、「あわてんぼうのサンタクロース」を元気いっぱい歌ってくれました。

次に看護師のハンドベルチームによるクリスマスソングが披露され、澄んだ音色にみんなが耳を傾けました。

続いて小児科病棟の子どもたちと先生や看護師たちが、「パプリカ」の歌をダンスしながら披露してくれました。うさぎ保育所の子どもたちも一緒に踊り、とても楽しいひとときとなりました。

その後、みんなで庭園まで移動し、待ちに待ったイルミネーションの点灯です。子どもたち全員で大きな声で、カウントダウンした後「点灯!」の掛け声と同時にイルミネーションが光り輝きました。「わぁー」という歓声が湧き上がり、子どもたちは光の美しさに目を輝かせていました。

終わりに、井川病院長と田中看護部長の二人のサンタさんから子どもたちにプレゼントが手渡され、みんな喜んで受け取っていました。子どもたちの笑顔を見ていたスタッフは、温かい気持ちになりました。

庭園のイルミネーションは年内いっぱいお楽しみいただけます。幻想的な光の世界をどうぞ堪能ください。





島大病院ニュース 2019年12月

ご報告



看護管理者宿泊研修を行いました

看護部長 たなか まなみ
田中 真美

看護管理者の宿泊研修を、10月25日・26日の日程で行いました。

中間管理者に必要とされるスキルの向上を図ることを目的に看護管理者研修を行っています。昨年同様に奥出雲の玉峰山荘に宿泊し研修を行いました。宿泊により看護師長同士の横のつながりを図り看護管理上の問題や悩みなどを共有し明日からの看護管理への鋭気につながればと思いい3年前より病院長の許可を頂いています。

今年度は、奥出雲仁多米株式会社社長の管理部長の内田康也氏をお招きし「仁多米のブランド化と販売戦略」についてご講演を頂きました。ブランド化するまでは5年間のご苦労があったこと、中でも品質のよさを信じ、目標に向けてリーダーのぶれない志、生産者と消費者がともにプラスになる循環型農業による取り組み等、成功に導いた経営戦略をお聞きすることができました。

講演後の看護師長のグループワークでは、看護管理者も同様に病院の理念に基づき目標達成に向かって信念をもち続け大学病院のブランド化にむけて取り組んでいくことが必要であり、生産者と消費者を看護管理者・スタッフ・医療者と患者さんに置き換えて考え、互いに満足できる関わりを行っていくこと等、今後の看護管理者としての展望につなげていくことができました。

その後、舞茸工場等の見学、金言寺の大イチョウや奥出雲おろちループの紅葉を見ることができ、日々の業務から離れ自然の中でリフレッシュすることが出来ました。

看護師長は、日々のベッドコントロール、患者家族対応、勤務管理等に追われている現状ですが、2日間の宿泊研修を通してお互いに情報交換し看護を語る時間にもなり看護師長間の横の繋がりを深めることができました。

今後、あるべき姿に向かってどう取り組んでいくかを考える機会ともなり、有意義な研修となりました。



島大病院ニュース 2019年12月

ご報告



島根大学医学部

生体肝移植施行30周年記念碑について

総合医療学講座 大田総合医育成センター 外科系教授 やまぐち みねかず
山口 峰一

1989年11月13日に島根医科大学第二外科を中心として、永末直文助教授(のち第二代教授)執刀のもと先天性胆道閉鎖症の1歳男児に対して父親からの本邦初(世界第4例目)の生体部分肝移植術が行われました。この移植手術が嚆矢となって今日の肝移植、ひいては移植医療の発展がもたらされたと言っても過言ではありません。今や生体肝移植は保険収載され、多種多様な末期肝疾患あるいは代謝性肝疾患の治療法として認知されるまでに至り、我が国における肝移植総数(脳死、生体含む)は約1万例にも及びます。島根から発信した情報が医療の常識を変えた好例と言えましょう。



日本の医療、いえ世界の医療の歴史に刻まれるべきこの偉業を後世に継承すべきとの思いから、このたび施行30周年を記念して、消化器総合外科の田島義証教授ならびに外科学講座同門会会長の内藤 篤先生をはじめとする同門会有志の方々より多くのご賛同を得て、大学構内に顕彰する記念碑を建立・寄贈する運びとなり、去る2019年11月3日永末先生、患児の主治医であった松尾 進先生(公立隠岐病院統括副院長)ら関係者のご臨席のもとに除幕式が挙行されました。設置場所は第二臨床研究棟南側庭で、題字には当時の医師団の苦悩を綴った『決断～生体肝移植の軌跡～』(時事通信社、絶版)にちなみ、第二外科初代教授中村輝久先生御揮毫による「決断」の文字が刻まれています。新たな島根大学医学部の名所としてご覧いただけますと幸いです。

ご報告
島大病院ニュース

2019年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

2019年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

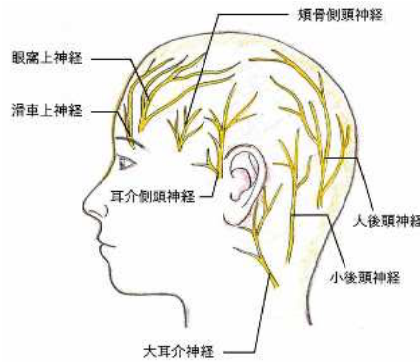


ご報告

覚醒下脳腫瘍手術の麻酔について ～質の良い疼痛管理と患者覚醒を目指した麻酔管理～

麻酔科 よこい 横井 / のぶや 信哉 / にかい 二階 / てつろう 哲朗 / さいとう 齊藤 / ようじ 洋司

手術を受ける患者が全身麻酔を受ける際には、通常、入眠(麻酔)状態から覚醒するのは手術終了後です。しかし脳腫瘍の手術では脳の正常な機能を保ちつつ、腫瘍切除範囲を決める必要があり、脳機能を確認しながら切除範囲を決めなければならない手術も存在します。脳の機能を確認しながら行う方法はいくつかありますが、その代表的な方法が覚醒下手術となります。すなわち脳腫瘍の切除範囲を決めるとき、患者を覚醒させる方法となります。



覚醒下脳腫瘍手術でおこなう頭皮ブロック

患者が開頭されている間に覚醒するには細心の注意が必要になります。麻酔科医が注意すべき点として以下の点があげられます。患者が目覚めたときに、①痛くない状態にあり、②外科医の指示にしたがって、しゃべったり手足を動かすことが可能で、③嘔気嘔吐や痙攣・ふるえを誘発せず、④呼吸や循環動態を安定した状態に維持しなければなりません。

実際の麻酔管理では、覚醒の質と疼痛管理を両立するために全身麻酔後に頭皮ブロックをおこないます。そして呼びかけがなければ入眠状態にあるが、呼びかけに対して速やかな反応が得られる特徴を持つデクスメトミジンという薬剤を使用することもあります。これを覚醒中に用いることで、患者の精神的不安を軽減しつつ、覚醒下での神経学的評価が可能な状態となります。また嘔気嘔吐を誘発しにくい全身麻酔薬(プロポフォール)や抗痙攣薬・ふるえ予防を考慮した麻酔計画を立てることも重要です。そして覚醒中も呼吸や循環動態を注意深く観察し術者とコミュニケーションをとりながら麻酔管理を行うことが肝要です。

当院では、現時点で1例の覚醒下手術の麻酔経験のみですが、覚醒の質も良好で、神経学的評価を行いながら手術を行うことができました。

麻酔全身管理は、モニタリングや薬剤の進歩もあり以前と比べて安全になってきていますが、覚醒下手術でも安心していただける麻酔を提供していきます。

覚醒下手術の目的や手法に関しては『覚醒下脳神経外科手術チーム発足』を参照ください。

https://www.med.shimane-u.ac.jp/_files/00085700/hospitalnews_62.pdf

連携による最先端歯科口腔外科治療の実際

～最新デジタルテクノロジーによる手術治療と全身合併症予防への口腔ケア管理～

歯科口腔外科 診療科長・准教授 かんの たかひろ 管野 貴浩

最新デジタルテクノロジー駆使による低侵襲・精密・正確な顎口腔の手術

当科では、口腔顎顔面領域に発症する様々な疾患に対応しておりますが、とくに本年9月に改訂更新された、最新手術支援ソフトMaterialise ProPlan CMF、[(株)マテリアライズジャパン]を治療に応用することにより、神経・血管系を抽出した精密正確な診断と3次元での詳細な手術治療計画が可能となり、顎口腔腫瘍や顎顔面外傷、顎変形症等の患者さんへ低侵襲な最先端治療の提供が可能となりました。患者さん・ご家族への治療説明においても好評を得ておりますが、診療科内に留まらず、関連各科(顎口腔の再建治療であれば形成外科、腫瘍や外傷治療等であれば耳鼻咽喉科、眼科、放射線治療科、放射線科等)との多角的連携治療での手術治療計画の共有にも役立てております。



院内患者さんの全身合併症予防への口腔ケア・口腔機能管理

最新の研究では、各種がん患者さんに対する口腔ケアが死亡率にまで影響を及ぼすことが明らかとなり、がん治療を始め全身疾患を抱える患者さんへの口腔ケア管理の重要性が認知されつつあります。当科では毎月延べ1,000例の手術予定患者さんの周術期口腔ケアを実施するのみならず、集中治療部(ICU)、緩和ケア病棟での口腔ケアなど、連携を密に合併症予防へ幅広く展開しています。

今後もエビデンスを重視した安心安全で最良の連携包括治療を心がけ、島根県圏域の歯科口腔外科医療の発展に貢献して参る所存です。

